

科目名：解剖学

区 分	内 容	
学習指導教員 (コーディネーター)	役 職 氏 名	生理学・細胞生物学講座 (生体構造解剖学分野) 教授 仁田 亮
	連絡方法	TEL: 078-382-5320 E-mail: ryonitta@med.kobe-u.ac.jp
	備 考	http://www.med.kobe-u.ac.jp/anatol/education/files.html
担当教員	役 職 氏 名	生理学・細胞生物学講座 (生体構造解剖学分野) 准教授 吉川 知志
	役 職 氏 名	生理学・細胞生物学講座 (生体構造解剖学分野) 助教 仁田 英里子
	役 職 氏 名	生理学・細胞生物学講座 (血管生物学分野) 准教授 平島 正則
担当教員 (学部外)	役 職 氏 名	保健学研究科 (保健学専攻) 准教授 荒川 高光
担当教員 (学外)	役 職 氏 名	浜松医科大学 医学部医学科 准教授 池上 浩司
	役 職 氏 名	姫路獨協大学 医療保健学部理学療法学科 講師 江村 健児
学習到達目標	<p>「解剖学」の学習到達目標は以下の通りである：</p> <p>(1) 人体の肉眼レベルの基本的構造について理解する</p> <p>(2) 中枢神経系の基本的な構造と機能、主要な神経回路について理解する</p>	
講義の概要・形式	<p>(1) 講義 解剖学の講義は大きく人体解剖学と神経解剖学の2つに分かれる。人体解剖学では、運動器系、循環器系、末梢神経系、消化器系、呼吸器系、泌尿生殖器系、感覚器系など、人体を系統別に分けて、主に総論的な内容に絞って講義を行う。神経解剖学では、神経組織学、神経系の発生・変性・再生、中枢神経系各領域、脳室・髄膜・脳血管系についてその概要を講義する。さらにまとめとして、運動系および感覚系の神経回路 (伝導路) について講義する。</p> <p>(2) 実習 骨学実習、人体解剖学実習、脳実習に分けて実習を行う。実習時間は限られているので、実習内容の十分な予習が必要である。実習は4ないし5名の班単位で行うため、班員全員が相互に協力して実習を遂行する必要がある。</p> <p>解剖学の学習の根幹となる実習は、多くの篤志家 (死後に自らの体を大学へ無償で提供=献体するボランティア) とそのご遺族の善意により成立していることを忘れないで欲しい。また、解剖学の実習には死体解剖保存法および篤志解剖法による厳しい法規制がある。これらの法律の内容は人体解剖学実習のガイダンスで説明するから、実習に取り組むに際しては、特に倫理面に十分に配慮することを強く望む。</p>	
講義内容	<p>各時間ごとの講義内容は日程表を参照のこと。</p> <p>(1) 人体解剖学 人体解剖学として割り当てられた講義時間は極めて乏しく、各論的な内容を講義に含めることは難しい。したがって講義では、総論的な内容や人体を系統的に理解するために必要な内容のみに触れる。講義は必要に応じて補足プリントを配布して行うが、人体解剖学指定教科書 (解剖学講義またはグレイ解剖学) を一冊購入・通読し、自学自習により講義内容を膨らませて系統的に知識を整理する必要がある。この座学による知識の定着・整理により、実習の場での学習内容の理解を格段に深めることが可能となる。</p> <p>(2) 神経解剖学 脳あるいは神経系に関する学問には様々なアプローチがある。それは関連する学問の名称を単に集めてみるだけでも理解できる (神経解剖学、神経生理学、神経病理学、神経薬理学、神経内科学、脳神経外科学、etc)。この神経解剖学の講義は、神戸大学医学部に学ぶ学生に対して広範な神経科学の導入部としての役割を果たすことが期待されている。下記の指定教科書に沿って講義を行う。神経解剖学の内容は初学者には難しく、また用語の意味も難解なことが多い。しかし、とにかく学習を放棄しないでほしい。みなさんは将来、何らかの形で神経科学の知識を必要とする場面に遭遇するはずだからである。なお、神経解剖学では中枢神経系のみを扱い、末梢神経系は人体解剖学で学ぶ。</p>	
授業における使用言語	日本語	
履修上の注意 (準備学習・復習、関連科目情報等を含む)	講義初回のガイダンスで説明する。また、講義・実習に関する必要事項について、生体構造解剖学分野のホームページ (URLは上に記載した) に逐次、掲載するので該当ページを定期的に関覧すること。	
教科書・参考書等	<p>(詳細は講義初回のガイダンスで説明し供覧する)</p> <p>■人体解剖学 指定教科書 (1または2を入手することを強く推奨する)</p> <p>1) 解剖学講義：伊藤隆著、南山堂</p> <p>2) グレイ解剖学 原著第3版：塩田浩平ほか訳、エルゼビア・ジャパン</p> <p>■神経解剖学 指定教科書 (入手することを強く推奨する)</p> <p>1) カラー図解 神経解剖学講義ノート：寺島俊雄著、金芳堂</p> <p>■指定実習書 (必ず入手すること)</p> <p>1) 解剖実習の手びき：寺田春水・藤田恒夫著、南山堂</p> <p>■アトラス (一冊購入することを強く推奨する)</p> <p>1) グレイ解剖学アトラス：塩田浩平ほか訳、エルゼビア・ジャパン</p> <p>2) ネット解剖学アトラス：相磯貞和訳、南山堂</p> <p>3) 解剖学カラーアトラス：Johannes W. Rohenほか著、医学書院</p>	
成績評価方法及び基準	<p>解剖学は「実習」と「筆記試験」の成績を総合して科目の可否を判定する。</p> <p>(1) 実習：全ての実習に出席することが定期試験の受験要件と医学部規則に定められているが、解剖学実習は回数が多く長期にわたるため、病気等のために真にやむを得ず欠席する場合は、事前に電話、電子メール等により担当分野教員に連絡すること (連絡先はプロフィール等を参照)。実習の出席確認は、開始時と終了時の2回行う。出席が確認できない場合はその都度減点となる。実習の出席状況と履修態度、実習中の口頭試験の結果等を総合して実習の可否を決定する。実習に合格しなければ学期末の定期試験を受験する資格を失う。</p> <p>(2) 成績評価：骨学、人体解剖学、神経解剖学について筆記試験を行う。筆記試験の得点に実習レポート、実習中の口頭試験、実習および講義の出席状況、のじぎく通信などへの寄稿文などを総合して得点を決める。総合得点を100点に換算し、60点以上を合格とし、30点未満は学年末に行う再試験受験資格を失う。</p>	